

予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

1 期 日 令和5年11月15日（水）

2 会 場 全員協議会室

3 開会時刻 午前10時50分

4 閉会時刻 午前11時20分

5 出席者	委員長	松浦昌巳	副委員長	松本 均
	委員	草賀章吉	委員	山本行男
			〃	窪野愛子
	〃	寺田幸弘	〃	勝川志保子
	〃	鈴木久裕	〃	富田まゆみ
	〃	藤原正光	〃	藤澤恭子
	〃	嶺岡慎悟	〃	大井 正
	〃	橋本勝弘	〃	安田 彰
	〃	石川紀子	〃	山田浩司

（欠席者 二村禮一委員）

当局 教育部長、こども給食課長

事務局出席者 議事調査係 萩田匡伸

6 審査事項

・議案第100号 令和5年度掛川市一般会計補正予算（第8号）について

7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

令和5年11月15日

市議会議長 山本裕三様

予算決算委員会委員長 松浦昌巳

議 事

午前10時50分 開議

○委員長（松浦昌巳） それでは、ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました議案は、議案第100号 令和5年度掛川市一般会計補正予算（第8号）についてであります。よろしく御審査をお願いいたします。

それでは、諸般の報告として3点申し上げます。

初めに、二村委員からは所用により欠席の申出がございますので、御承知おきください。

そして、当局から説明資料の配付について申出があり、許可いたしましたので、サイドボックスに掲載してあります。御確認ください。

次に、発言の際は挙手の上、委員長の許可を得てから、必ず自席のマイクのスイッチを入れてから発言するよう、お願いいたします。

また、質疑においては、説明を求める場合、議案のページ数を示し、疑問点を明瞭に発言することとし、答弁も簡潔に分かりやすくお願いするとともに、一問一答方式でお願いいたします。議案に関係のない質疑や意見は控えていただきますよう、お願いいたします。

また、傍聴の申出がありましたので、御報告申し上げます。

それでは、2の審査事項に入ります。

議案第100号 令和5年度掛川市一般会計補正予算（第8号）についてを議題とします。

それでは、こども給食課の説明をお願いします。

〔こども給食課長説明〕

○委員長（松浦昌巳） 説明が終わりました。

何か質疑ございますでしょうか。

草賀委員。

○委員（草賀章吉） ちょっと教えてください。今、ホーユーの話がありましたけれども、ホーユーとは関係ないんですね。

それで、来年の3月まで今契約しているのはどこなんですか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） 魚国総本社です。

○委員長（松浦昌巳） 草賀委員。

○委員（草賀章吉） そこがホーユーのようなことになるという心配があったわけではないんですね。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） そういうわけではありません。

○委員長（松浦昌巳） 草賀委員、よろしいですか。

○委員（草賀章吉） はい。

○委員長（松浦昌巳） じゃ、そのほか質疑ございますか。

勝川委員。

○委員（勝川志保子） この安定的な給食が担保されるというのは非常に重要なことなんですけど、こうやって前倒しをして、プロポーザルにかけることによってそれができるとというのがよく分からないんですよ。

去年のこのホーユーから始まったいろんな給食をめぐる問題とかと考えると、給食業者自体がもう本当に赤字経営が多くなっていて、3割、4割が赤字経営をしている。どこが破綻してもおかしくない。ホーユーも非常に大きい会社で、先ほどプロポーザルすれば安定した業者を選定できるんだというそういう御説明があったんだけど、これに、このプロポーザルの前倒しで安定できるのか。逆に、入札による給食業務というのは値上げが何年かに一遍しかできないよとか、そういうところが本当にこの給食業者の経営悪化につながっているというふうに思うわけなんですけど、このプロポーザルやれば安定供給できるという、そういう提案ですか。ちょっと何か私、違うんじゃないかなと思うんですけど、も

うちちょっと詳しく説明してもらえますか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） 業者選考として、この資料に書きましたとおり、最初は当初 7月までを随意契約ということで予定していました。このプロポーザルを早めたといいますか、4月からスタートする業務ですので、プロポーザルで業者間の比較を行い、より経営の安定した、今回そういった面も含めて審査をさせていただいて、業者を選びたいということです。

限度額につきましても、調理業務委託ですので、大部分は人件費になると思います。その辺につきましても、人件費の伸びなども含めて限度額を設定させていただいています。

○委員長（松浦昌巳） じゃ、部長から。

○教育部長（山梨実） すみません、本質とちょっと違うお話で、勝川委員のお話にちょっと回答させていただきたいのですが、業者の決め方で競争入札、金額だけで決めてしまうと、一番安いところ、要は人件費を削ってでも安く入札するという選び方になってしまうのです。

このために我々は、プロポーザルという形で、金額もちろん項目に入っていますが、会社の体制とか、今回は営業状況とか、衛生管理、考え方とか、学校給食に対する思いとか、そういった総合的な判断をさせていただいて、より良い業者を選ばせていただくということでございます。

先ほど、お話の出たホーユーの事件があった後に、各地でより良い業者を選ぼうとして皆さん、先行して動かれているような情報もありますので、なるべく早くうちも公募をかけて、できるだけいい業者に応募していただきたい。

昔で言うと、仕事を出せばどこかが取ってくれるのだという状況だったと思いますけれども、どちらかというところ今の状況ですと、やっただけという気持ちでこちらが臨まないと、なかなか良い業者を取っていただけないので、そういうところも踏まえて早く出して、広く知らしめて、良い業者に来ていただきたいということでございます。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑。

じゃ、勝川委員。

○委員（勝川志保子） この委託 5年間のプロポーザルであれする金額が出ていますよね。この金額というのは、人件費が多いよという今、御説明でしたけれども、今の状態よりも上げているということなんです。上げているんだとしたら、その割合、どのくらい上げているのかということですよ。

それから、もう実際には、みなみの給食のところも求人広告紙なんか見ても、何度も求人が出るわけですけれども、人件費、最賃にへばりつくような非常に低い額いつも提示されていて、本当、ああ、本当こんな低い額で給食作っていただいているんだなというふうに見えています。それが改善される際、賃金も上がりますよね。これからもその給食業務のところというのは本当に上がっていく可能性がある部分だし、大事にしなきゃいけない部分だと思うんですけども、それが担保されたこの 4億 2,899万 2,000円という数字が出ていますでしょうか。人件費、どういう計算をしているのでしょうか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） 限度額については、期間は64月分ありますが、この間でおおむね約10%以上、11%ほどアップということで限度額を設定させていただいています。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑ございますか。

大井委員。

○委員（大井正） 今のお話の中で、お金はほとんどが人件費と言っていっちゃいましたけれども、給食というものを考えるとき、一番大きく広げちゃうと、材料費も水光熱費も建物の修理費も、それから配送費も全部入っている、トータルの中身だと思うんですけども、その中の人件費が主と言ったけれども、もうちょっと何ていうの、総額幾らのうちのこの分野というのをもうちょっと確定的な御説明をいただけますか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） 今回の委託につきましては、調理業務ですので、この総額 調理

の委託しか入っておりません。

○委員長（松浦昌巳） 部長、お願いします。

○教育部長（山梨実） 運営に係る人件費とか、食材費とか、建物の管理費、光熱費、水道料とかは、市のほうで持っています。調理の人の委託ですので、配送もまた別の業務ですので、純然たるそこだけです。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕） 今の予定というか、この事業所に大体何人ぐらい人を張りつけるのですか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○子ども給食課長（高塚茂樹） これからプロポーザルとかで出てくる案件かもしれませんが、今現在、パートの短時間、長時間も含めて、の延べ人数で30人おります。

○委員（鈴木久裕） 1日当たり。

○子ども給食課長（高塚茂樹） 1日当たりというか、正社員を含め、この会社が契約をされている人数です。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑ございますか。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕） 今後、人の確保というのはなかなか、どんどん難しくなってくるというふう考えたときに、これは市としてどうだということではなくて、部長、課長の個人的なイメージでも結構なんだけれども、ひょっとして短い時間だから難しいとはいえ、ひょっとしたら直営ですべて確保するほうが安定的にできるんじゃないかとかという、そういうアイデアは検証してみたり、反すうしてみたことはありますか。

○委員長（松浦昌巳） では、部長。

○教育部長（山梨実） それこそ直営でやっていたときというのは、各学校に共同調理場というような形で2つ、3つの学校でやっていたときがあるのですが、例えばですけれども、日坂の共同調理場、日坂小と東山口小を担当していましたけれども、正規1人、臨時2人、3人でやっていました。誰か1人休むと、2人でやる。今の今まで、この間のコロナか何かで誰かがコロナになってしまうと、給食が止まってしまうとかというような不安を抱えながらやっていたことを思うと、大きな組織でやっていたと、例えば今般でいうと、魚国さんがやっていたいるんですけども、魚国さんで誰かが休む、けがをした、コロナになったという、ほかの事業所から人が来るというふうなことで、我々からすると非常に心強いという面はあります。

直営でやるということの、うちの意思が通りやすいというメリットもありますけれども、安定的に事業を継続するという意味でいうと、どちらがいいのかという部分はなかなか言い切れない部分はあるかなと思っています。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑ございますか。

勝川委員。3回目になりますので。

○委員（勝川志保子） 給食、いろんなオーガニックビレッジ宣言の交付金を使いながら有機給食にいられていくとかという、そういういろんな政策的に給食の方向が変わっていったときに、調理業務というのもやっぱり有機入れていくと、洗浄が大変だったり、規格がそろわなかったり、地場産物をきちんと入れようという、そういう方向にシフトしたときには、私この人件費を含めた給食の運営というのも変わっていくし、もしかしたらもっと必要になるかもしれないというような政策への切り替えが掛川市に進んでほしいなと思っているんですが、この5年間は長期委託でなったときに、そういった変更ですよね。もう一括5年間ぼんっと委託になったときに、それがきちんと担保できるのかなという不安も感じているんですが、それはないですか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長、回答をお願いします。

○子ども給食課長（高塚茂樹） オーガニックビレッジ、有機の関係ですけれども、市の施策としてオ

ーガニックビレッジ宣言をしていますので、そういったところ、プロポーザルの中で提案しているとい
いますか、施設の設備は現状のままで行いますので、そういった設備を見ながら、そして市の施策とか
を情報収集して、業者のほうに提案していただけることだと思っております。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑ございますか。

どうぞ。

○委員（富田まゆみ） 私は、オーガニックとかそういう意味じゃなくて、例えば世界情勢的に見て、
人件費がもっとアップ、全体的に、何だ、上がったりとかとした場合に、こういう長期契約をした分の
場合が、もうそれより上げることができないのか、柔軟に対応していくのか、その辺はどうなってい
くんでしょうか。

○委員長（松浦昌巳） 部長、お願いします。

○教育部長（山梨実） 当然、契約というのは対等な立場でありますので、情勢が変わればそのとき協
議して、どのようにしていくかということは協議させていただくと思えます。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕） 一応、この3年間の、さっき総額は、さっきもちょっと出ていたとは思いますが
も、官製ワーキングプアは作らないようなことは配慮した人件費を基に算出されているということで判
断していいですか。

○委員長（松浦昌巳） 高塚課長。

○こども給食課長（高塚茂樹） そういったことにならないようには試算をしています。

○委員長（松浦昌巳） そのほか質疑ございますか。よろしいですか。

〔「なし」との声あり〕

○委員長（松浦昌巳） それでは、以上で質疑を終結します。

質疑が終わりましたので、ここで委員間討議をお願いします。

意見のある方はいらっしゃいますか。

勝川委員。

○委員（勝川志保子） 給食というのは本当に大切、学校給食、非常に大切な部分、子供の3分1の体
を作っているのが給食だと思うんですね。そこのところは掛川市というのは、センター化を進めて、
大規模化も進めて、それを業務委託で民間に回していくという手法を取っているんだけど、先ほど
ちょっと意見が出たように、本当に直営に戻していく、直営を維持しているという自治体も存在してい
て、今、人がそんな大変だという、人の配置が大きいところがいいというふうに言っていたけれども、
センター化しているわけですから、規模は大きいわけでもね。その大きい規模になってしまってい
るところをきちんと運営して、やっぱりこうやって何かプロポーザルで民間にお任せしてというやり
方で、本当にこれから先やっていけるのかなというのが非常に疑問に思うところがあります。

何か公営というか、そのやり方にしていくべきなんじゃないかなということを感じるのと、今11%で
すか、アップ、人件費を、そういうふうには試算しているというんだけど、その部分についてもや
っぱりこれから先、これで本当に一番給与が低いのが調理業務なんですよ。皆さんもハローワークと
か行くと分かると思う。一番はいつくばっているのが調理業務、女性が多いということもあるだけ
けれども、なんだけれども、調理業務の中でも給食というのはやっぱり物が大きいせいか、重労働にもなり
やすい場所なので、これで本当に担保できるのかなというのが非常に疑問です。

○委員長（松浦昌巳） ただいま勝川委員より、給食業務ですね、大規模運営、これからプロポーザル
をするということの運営の方法が心配であると、あと11%アップしているけれども、これもまだ不安が
残りますというような御意見がありました。

これに対して、何かその他の方、御意見ございますでしょうか。そのほかのことでも構わない。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕） 今、ホーユーの事件が全国的にそういう業者取り合戦というか、もう本当にお願

いしなきゃ集まらないという状況中で、一刻も早く手当てをしたいのという提案ということなので、これはもうそれはやってもらえればいいのかというふうに僕は思います。

もちろんプロポーザルの中で、中身がちゃんと審査されるということですから、そこはもうお任せをしてやってもらえるのがいいのかなと思います。

○委員長（松浦昌巳） 鈴木委員は、今の状況であると、より早く手当てをするべきではないかというような御意見だと思います。

そのほか。

安田委員。

○委員（安田彰） 安定した給食を提供するというのがやっぱり一番だと思いますので、そういう5年間という、業者にとっても先を見通した運営ができると思いますし、私はこの提案には基本的には賛成なんですけれども、ただ、大事なことは、食というのは、給食というのは子供たちにとって楽しみなので、食の内容について、給食の質についてのチェックということをしちんとして行ってほしいなということを思います。

以上です。

○委員長（松浦昌巳） 安田委員より、おいしい給食を、楽しい給食、質のチェックをしてほしいというような御意見です。

○委員長（松浦昌巳） そのほか。

富田委員。

○委員（富田まゆみ） 先ほどの説明の中で、業者と市が対等な立場にいますので、臨機応変にいろんな形で対応していくというお話もいただきましたので、私もこの形でいいというふうに考えております。

○委員長（松浦昌巳） 富田委員からは、今の形で進めてほしいという御意見です。

そのほか、御意見ございますか。

草賀委員。

○委員（草賀章吉） ちょっと委員の皆さんにお聞きしたいんですけれども、ホーユー事件の本質は何か、私、よく知らないんですけれども、これはホーユーがああいう形で出た。だけれども、ほかの業者もぼんぼん出ている状況なのか。ホーユーはなぜああいうふうになったのかというのは、もし委員の中で分かったら教えていただきたい。

○委員長（松浦昌巳） 草賀委員から、ホーユーの事件についてももう少し知っている方がいれば、御意見欲しいということです。何か御存じの方はいらっしゃいますか、本質というか。

嶺岡委員。

○委員（嶺岡慎悟） 本質ということではないんですけれども、あれは販売的なものも入っていると思います。給食の場合は、あくまでも食材費は保護者が払っているんで、食材費の値上げは基本的には影響がない。それに対して人件費ということで、今回になるので、ホーユーとはちょっと課題がある意味違うんじゃないかなと私は推測されるというか、販売、それこそ食堂というか、カケシヨクみたいなところのパターンだと、その料金をしっかり上げられるかどうかとかという、そういうのが多分ホーユーに絡んできているところであって。

確かに給食だったりとか、特別支援だったりということはありますけれども、あれ多分販売の金額で売ってたりすると思うので、そういう違いが今回課題等はあるかなと思います。

○委員長（松浦昌巳） 勝川委員。

○委員（勝川志保子） 基本はそうだと思うんですけれども、給食を引き受けている、この学校給食を引き受けているところも学校給食だけでやっていませんよね。そうすると、もう本当に全体の経営が給食業界の経営というのは本当に悪化している。それから、新聞記事なんか見ても、最終損益が赤字になっていると、もう完全に赤字になっているところが34%あって、その上減益になっているところが3割ある。だから、過半数が給食業者として、何ていうの、経営が本当に逼迫した形に業績不振に陥っている今現状があるので、全体のこの調理業務を行っているところが本当に大変なことになっているとい

うことだと思っんです。

給食だけを行っているわけでないわけですから、幾ら大きいところであれしていても、ほかのところも抱え込みながら調理業務をやっているのが今の日本の調理業界というか、現状だと思いますので、全体の本当に人件費の底上げとかを本気で図らないといけないなと思いますし、物価のこの高騰の中でこのところに飲食業の方々に負担がかかっているという、その一つの結果じゃないかと思っているんですけれども。

○委員長（松浦昌巳） 議論は尽くさないとはい思っすけれども、この 100号に対しての討議であってほしいなと思っていますけれども、いいですか。

富田委員。

○委員（富田まゆみ） すみません、今いろんな不安を勝川委員のほうがお話しくださったんですけれども、今現在、ずっと掛川が業務委託をしていた業者さんから直接的にもう本当に経営が悪化して、大変なんだというような声を聞いている方はいらっしゃるでしょうか、この中で。私はちょっと聞いていないので、もしそのことを知っている方がいたら教えていただきたいです。

○委員長（松浦昌巳） これまで掛川市内の給食センターの方々からそういった話を聞いたことがありますかというようなことですので、何か情報が入っている方というのはいらっしゃるでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（松浦昌巳） いらっしゃるんですかね。

掛川市内の業者さんには、そういうことはなかったかなという形でしょうか。

そのほか討議になります。よろしいですか。

〔「いいです」との声あり〕

○委員長（松浦昌巳） それでは、次に討論になります。

討論はございますでしょうか。

勝川委員。

○委員（勝川志保子） ちょっといろいろ何か考えたんですよ。確かに、前倒しする必要があるのかもしれないというのも考えましたが、やっぱり私は給食を安定供給していくというのを長期委託もそのまま、そのプロポーザルを前倒しして、先に業者を取っておけばいいという考え方にはちょっといかなものかなと。

その人件費を少し上げているよということなんだけれども、今後の給食の在り方を本気で考えなきゃいけないときに来ているのに、それを先 5年間を含めてこうやって前倒しするよ、債務負担行為をやるよということよりも、先ほど言ったように、公営に戻していく、調理業務をきちんと市役所が責任を持ってやる形にしていく方向を探ったほうがずっと安定するんじゃないかというふうに思っいます。

○委員長（松浦昌巳） この議案に対しては反対ですよという意味のことですね。

○委員（勝川志保子） そうですね、反対をしたいというふうに考えています。

○委員長（松浦昌巳） 討議ではないので、それに対してではなくても構わないです。討論です。

鈴木委員。

○委員（鈴木久裕） 賛成の立場から発言します。いずれやらなきゃ債務負担、今、お話しあったその新しい体制なんていうのは一朝一夕でできるものじゃないし、時間のかかるものなんだから、そういった検討を含めて。

今は、とにかくこれは少し前倒しをして十分な準備をしましょうということについて、それはそれで私はいいと思っすけれども。

○委員長（松浦昌巳） そのほか討論ございますでしょうか。

窪野委員。

○委員（窪野愛子） 私は賛成の立場で発言します。

まず、何といっても子供たちに安心で安全な給食を絶やすことなく提供することが大事ということで、そのあたりを考えてくださって教育委員会から今こういう案件が出ているということで、私はこれをそ

ういうわけだから賛成するということによろしいですか。

○委員長（松浦昌巳） はい。

よろしいですか。ほかに。

〔「なし」との声あり〕

○委員長（松浦昌巳） 以上で討論を終結します。

それでは、採決に入ります。

議案第 100号 令和 5年度掛川市一般会計補正予算（第 8号）について、可決することに賛成の方の挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○委員長（松浦昌巳） はい、下ろしてください。

議案第 100号については、賛成多数にて可決すべきものと決定いたしました。

以上で、予算決算委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

以上で、予算決算委員会を終了します。

お疲れさまでした。

午前 11 時 20 分 閉会